

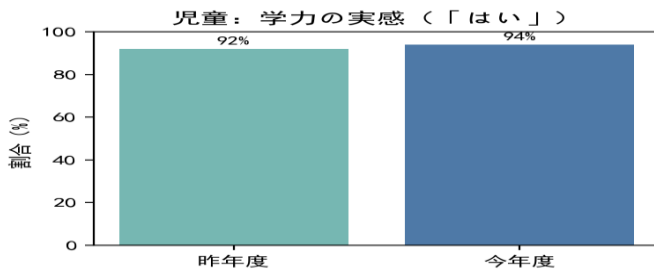
R7 年度 学校評価アンケート結果より

・回収数:保護者 193 名、児童 307 名(地域:学校運営協議会によるアンケートを実施)

学力の実感

(児童):「学習したことが身についているか」に対して

「はい」が 昨年度 92% → 今年度 94% と上昇。



授業づくり・教科担任制・
タブレット活用・教職員の
研究研修の継続が要因の
一つ

いじめ項目

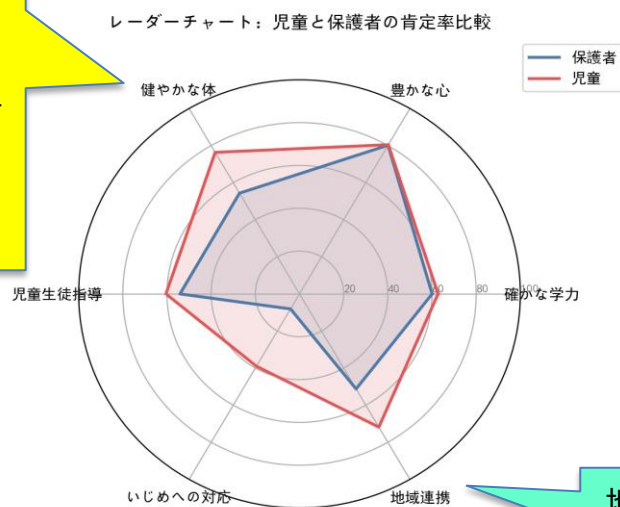
「友達をいじめてしまうことがあるか」という問いについて

「思わない+あまり思わない」 R7 児童 66% 保護者 89%、（認識差あり）。

児童は「もしかしたら、いじめる側になってしまうかも」という緊張感をもっているが、保護者は「うちの子がいじめるはずがない」と思っている。

児童にはこの緊張感に配慮した指導の継続、保護者には現状説明をしていくことが必要である。

外遊びの意欲は回復傾向。ただし放課後の過ごし方・地域のルール運用でのトラブルが増加傾向。



地域連携への
関心が低い

これから

- ・授業設計:児童の興味関心と「わかった／できた」の実感を両立(教科担任制・タブレット活用・教職員の研究研修を継続)。
- ・いじめ予防:児童への具体的手立ての指導と、保護者への現状説明の機会設定で認識差を縮小。
- ・体育・遊び:地域のルール・マナー周知と遊び場の環境整備、全校体育朝会の継続で体力向上。
- ・地域連携:高い地域教育力(ボランティア・家庭教育)を活かした人材開発を推進。